

「しんゆり・芸術のまち」づくりとして展開される各事業へのヒアリング調査結果(一部抜粋)

番号	ヒアリング対象事業 (開催時期)	実施主体 (委託先)	活動の現状と課題 区民の関わり/地域の文化人との関係/課題等	麻生区というエリアのメリットとデメリット	麻生区(市)への要望、しんゆり芸術のまちのアイデアほか
1	麻生音楽祭 (6月~7月)	実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 企画、準備、運営のすべてに区民が関わっており、ボランティアの育成も実施している。 小中音楽教員や昭和音楽大学も関わり、今年は新たにジャズ分野も新設した。 市民館の会場使用回数の制限により、日程調整が困難 各団体の練習場所確保が困難 など 	<ul style="list-style-type: none"> 合唱・合奏サークルが多数存在し、団体間の連携が図りやすい。 継続開催により第2世代の参加も増えている。 など 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの参加者を募るため、広報方法やタイミングの工夫が必要 練習場所確保のため、既存施設の利用拡大や市民館の音響設備の改善を図って欲しい。 麻生フィルによる映画祭とタイアップした演奏など、他のイベントや組織との連携を重要と考える。 など
2	KAWASAKIしんゆり 映画祭(野外上映会) (8月、10月)	NPO法人 KAWASAKI アーツ	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの約4割、鑑賞者の36%が区内在住者で、日本映画大学ほか川崎市にゆかりのある映画関係者とも繋がりが多々ある。 アートセンターで良質な作品鑑賞が可能となったが、映画祭としてどう補完していくかが重要 恒常的な業務処理体制づくりやアルテリッカしんゆりの映像部分との住み分けやPR方法に工夫が必要 など 	<ul style="list-style-type: none"> アートセンターを中心に、都心に行かなくても良質な作品鑑賞が可能で、日本映画大学・ワーナーマイカルシネマス・昭和音楽大学等のハード面も揃っている。 新百合ヶ丘駅周辺の景観に関する規制が厳しく、開催時にお祭感を出す装飾が思うようにできない。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術・文化のまちづくりを進める中、景観上の制約の一部見直しを検討してもらいたい。 映画祭として他のイベント(区民祭、オーリーブ祭など)と連携して展開している。 春の「アルテリッカしんゆり」と秋の「映画祭」を二大イベントとして捉え年間を通じた展開していく。 など
3	川崎・しんゆり芸術祭 (アルテリッカしんゆり) (主に、ゴールデンウィーク 期間)	実行委員会 (財団法人 川崎市 文化財団)	<ul style="list-style-type: none"> 実演者(プロ演奏)、観客、ボランティア(運営)の3面から区民が関わっている。 トップレベルの芸術提供→チケット代から謝礼支払う循環システム 新規転入者や若い層の取り込みが必要 「市民主体」を謳う芸術祭であるが、まだ不透明 地域に目を向ける高齢者をどう事業に結びつけるか。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア意識が高く、自主性を持って参加する人が多い。 「芸術の力」からその必要性や感動共有ができており、芸術祭から「まちづくり」へ広がる可能性がある。 新旧住民のコミュニティの繋がりが課題。ボランティアも町内会組織や活動をの繋がりがやや薄い感じがする。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 「芸術のまちづくり」のコンセプトをしっかりと築き、継続性と財政面の担保が必要 町内会、行政、区民会議などそれぞれの役割を明示し、市民館等も含めて連動した展開をして欲しい。 アルテリッカは「芸術のまちづくり推進」のモデルケース(川崎No1→小田急沿線No1→国内、世界No1)とし、各芸術事業はそれぞれ目的・性格は異なるが、それぞれにあった広報活動、繋がりを作ることが必要 など
4	Kirara@アート しんゆり(11~2月)	実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 新百合ヶ丘駅周辺の店舗、商店街、企業、団体等からの協賛により運営を実施 期間中開催のコンサート等の後援、広報などタイアップして展開を実施している。 区民や周辺施設との協働関係を築いている(昭和音大学生や藤原歌劇団、千代ヶ丘小合唱団等がイベント参加) 協賛金による運営のため、景気悪化や震災の影響で予定額を確保できるか課題である。 など 	<ul style="list-style-type: none"> アートセンターや昭和音楽大学など周辺で開催されるイベントとの相乗効果や、学生や地元小学校との協働が可能 新百合ヶ丘周辺で活動する際の制約が多い。(出展、掲示など情報発信も条例等で制約されている) 市民が集まれる場所(広場等)や交通網などの社会基盤が不十分など 	<ul style="list-style-type: none"> 市(区)の施策の一環として、「芸術のまちづくり」に取り組んでもらいたい。 景観形成に関する条例の見直し等検討してもらいたい。 文化芸術の担当者設置または区窓口の一本化が必要ではないか。 町内会との連携についてはもう少し検討が必要。 など
5	しんゆり・オーリーブ まつり(10月)	実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 新百合ヶ丘駅周辺の店舗、商店街、企業、団体等と連携して実施 区民に対し、オーリーブの苗木を配布している。 地域の芸術家等の出展によるアート市を開催 協賛金による運営予定額の確保も課題 など 	<ul style="list-style-type: none"> 新百合ヶ丘駅周辺にありオーリーブのあるところを中心にイベントを展開できる。 新百合ヶ丘周辺で活動する際の制約が多い。(出展、掲示など情報発信も条例等で制約されている) 市民が集まれる場所(広場等)や交通網などの社会基盤が不十分など 	<ul style="list-style-type: none"> 市(区)の施策の一環として、「芸術のまちづくり」に取り組んでもらいたい。 文化芸術の担当者を区役所に再設置すべきではないか。 オーリーブまつりで、その他のイベント全体を繋ぎ、連携した広報と地域活性化に繋げたい。など
6	あさお芸術のまち コンサート(通年)	実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会を中心に企画・運営全般に区民も関わり、出演者はすべて麻生区在住でネットワーク登録した音楽家である。 区からの委託事業としてコンサート等開催しているが、委託費の使途について制約が多く、実行委員会や出演者の負担もある。 など 	<ul style="list-style-type: none"> 区内全域で鑑賞参加希望者が多く、音楽に関心のある人が多く、やりがいを持って活動することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「芸術のまちあさお」の今後の方向性を明確にして欲しい。子どもが夢を持って展開を図り、音楽を通じた区民の一体感に繋げてほしい。 練習場所不足の解消に、学校や市・区施設開放を検討してほしい。 映画祭やアートセンターとはすでに連携した取り組みをしているが、更なる展開を図るため、関係する各事業の実行委員会メンバーを集めて合同実行委員会を開催し連携を図ってほしい。 「音楽のまち麻生」の更なる発展には地域活動の要である町内会との連携が重要 など
7	あさお区民祭(10月)	実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会を中心に企画・準備・運営がなされ、パレード・野外ステージ・各種展示部分で、区内の団体・協会・クラブの協力による。 芸術分野の専門家との関わりはあまりない。 会場が区役所・市民館のみのため、多くの区民に楽しんでもらうには限界がある。 当日の運営や役割分担についての工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> もっと区民が中心となって進められれば良いのだが、区職員へ負担をかけてしまっている部分がある。 引き続き区(行政)からの同程度の支援をお願いしたい。 すでに、オーリーブまつり(アート市)などと一部連携をしている。 周辺施設とも連携した企画・イベントを実施することで、より多くの区民参加が期待でき、盛り上がるのではないかと考える。
8	あさお福祉まつり(11月)	実行委員会 (麻生区社会 福祉協議会)	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会が運営全般の中心を担い、各種展示・出展は区内で活躍する社会福祉系グループ、当事者団体等が、主体的に参加。 各団体の出展参加は無料で模擬店等の収入は各活動費に還元。 予算減により、各団体の無料参加による運営が難しくなっている。 参加団体とそのプレゼン内容が固定化しつつある、 	<ul style="list-style-type: none"> 他区と比べて福祉施設や団体が多い、区民の社会福祉に対する関心が強い、という特性が、大きなイベントを行う助けとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業予算の確保(委託料減額の回避)をお願いしたい。 平成23年度に開催予定の、震災の復興支援チャリティコンサートについて、昭和音楽大学同窓会(京浜支部)のボランティアと連携して進めている。今後の新たな連携と展開(福祉と音楽の連携)が期待される。

*ヒアリングは、各事業(イベント)の取り組み母体(主に実行委員会委員(または事務局))に対して行っています。

*上記は、各ヒアリング報告書から抜粋したもので、各ヒアリング団体に報告内容の確認済みです。